



開催地名	北海道苫小牧市
開催日時	令和7年11月2日(日) 10:30 ~ 11:30
開催場所	苫小牧市総合体育館
語り部	早坂 政人(宮城県仙台市)
参加者	消防団5名 町内会9名 他一般市民
開催経緯	毎年、苫小牧防災講座を開催。いつ起きるかわからない自然災害に備え、防災の知見を深める。今回は被災経験を知ることにより防災意識の向上に繋げる。
内容	<p>(1)仙台市の概要：人口109万人、東北地方最大の都市。 5つの行政区(青葉区、宮城野区、若林区、太白区、泉区)を有しており、面積786.30km²、地形は山地、丘陵地、低地が混在している。</p> <p>(2)地震の概要：平成23年3月11日、マグニチュード9.0の地震が発生。仙台市内の震度は最大6強。津波警報が発表され、仙台港で7.1mの津波と推定された。 (地震で揺れた際の動画、津波、2日後の様子各動画を流す)</p> <p>(3)津波の教訓 多重防御の必要性 海岸堤防・海岸防災林・避難の丘・避難施設(小学校に避難階段の設置、津波避難タワー、水族館等の民間施設利用)・高速道路(避難階段の設置) また津波ハザードマップは悪条件を想定して作成する。 東日本大震災では地震の揺れ(建物倒壊や家具転倒)が原因で亡くなった方はほぼいなかった。津波の被害が想定を大きく上回ったためである。</p> <p>(4)教訓をツナグ 苫小牧市防災ハンドブックはとていい資料。自分の住んでいるエリアの確認に活用して欲しい。 (能登半島地震の動画を見る) 津波警報が出て助け合いながら高台に避難。動けなくなった住民をおんぶ(担ぐ)子どもたちが先に走り出し後に続く大人たちも走り出す。 ・この映像の教訓として人を運ぶ訓練の必要性、より早くより高く移動する重要性、自ら避難することが求められる。</p>

		
開催地より	<p>東日本大震災の実際の映像や写真が多く、当時の災害の規模の大きさ、恐ろしさを改めて考えさせられました。また、災害の備えについての的確な講座をしていただき、苫小牧市民の防災意識向上に貢献していただきました。</p> <p>津波避難タワーや丘を使った訓練等、苫小牧市がまだ実践したことがない内容も盛り込んでいただいたことで、今後市が行う予定の事業の参考ともなりました。</p>	